

平成 27 年 9 月 28 日

地盤工学会関東支部 平成 27 年度 第 3 回会員 SG 幹事会議事録

日時 : 平成 27 年 9 月 25 日(金) 15:00～

出席者 : 11 名

田中 剛	○	鈴木 亮彦	○	荒井 郁岳	○	亀井 秀一	×	佐々木 隆光	×
立石 亮	×	槌谷 勝之	○	三上 武子	○	堀 智仁	○	山中 光一	○
長谷川 圭介	○	武田 陽	○	太田 秀樹	○	重村 智	○		

■ 確認事項

- 1) 前回議事録の確認

■ 検討事項

- 1) 南本牧最終処分場 現場見学会(担当：田中, 鈴木)

- ・ 海洋工業からの持ち込み企画である現場見学会について、費用の問題が解決したので、会員 SG で担当することとなった。
- ・ 開催日は 10 月 27 日(火)とした。
- ・ 現場での案内等は全て海洋工業が担当するので、我々は根岸駅での集合と解散の段取りだけを行う。当日は田中先生と鈴木が対応する。
- ・ 来週には募集の会告(メール)を出す予定である。

- 2) 支部交流会 ジオ散歩(担当：太田先生, 鈴木)

- ・ 外部講師を新宿歴史博物館に打診したところ、快諾いただいた。
- ・ 参加費は飲み物, 入館料, 保険代で 1000 円程度と考えている。
- ⇒ 今回は作業が伴わないので、保険料は安く抑えられるはずである。
- ・ 開催日は 11 月 28 日(土)を予定している。
- ・ 参加者があまり多いと混乱するので、募集は 20 名程度とする。道中の親睦も大事なので、全員で集まって歩くようにする。ただし、信号等でバラける可能瀬があるので、チェックポイントと到着時間を明確にしておく。
- ・ タイトルは「ジオ散歩 ～玉川上水を巡る～」として、シリーズ化を目指す(サブタイトルは適宜変更)。

- ・ 10 月末には会告(メール)を出す。並行して、当日配布するリーフレットを作成していく。

～ 太田先生より ～

- ・ シニアの会員が学会に留まるための企画をずっと考えている。
 - ・ 土木史跡委員会(正垣先生)が、横須賀市の史跡をテーマとして講演会を開催した。主催は横須賀市と JGS であり、一般の人を含めて 300 人以上集まった。その結果、横須賀市の職員の中に、学会に入会する人が出るなどの効果があった。
 - ・ この例を参考にして、自治体とタイアップした研究委員会形式にしてもいいのではないかと考えている。ただし、従来の委員会の形式では、予算や期間、委員長の成り手などの問題があるので、クリアしていかなければならない。
- ⇒ 研究委員会には制約も多いので、下地となるものを今回の企画の中で見つけていけばいいのではないか。
- ・ 例えば以前にあったデスマッチ講義のようなものを、カムクレイをテーマとするというアイデアもある。
- ⇒ 防災に興味を持つ市民の方も多いので、学会員の中に「市民会員」という枠組みを設けて、一般の方の勉強の場を提供してもいいのではないか。
- ⇒ 会員 SG の枠組みを超える分野でもあるが、今後も継続して議論する。

3) 若手技術者交流会 (担当 : 佐々木, 亀井, 槌谷, 堀)

- ・ 地盤改良の施工方法もいろいろあるので、施工分野だけでパネリストを集められるのではないかと考えている。
- ⇒ 会の主旨が他分野の交流でもあるので、設計、施工といった分野の人を集める方が良いと思われる。
- ・ 10 月～11 月に実施する企画が多いので、来期に延期して 6 月の開催を目指す。
- ⇒ 「若手」の名前が付く他の行事も多いので、差別化をした方が良くのではないか。パネリストに話してもらった内容が学会発表のようにならないように、今後も議論を続ける。

4) ソイルストラクチャーコンテスト (担当 : 三上, 荒井, 山中, 長谷川, 武田)

- ・ 開催日は 11 月 14 日(土)とする。
- ・ 予備試験を 10 月 2 日(金)に行う。場所は日大とする。

- ・地盤の作成方法は空中落下とする。確実に飽和させるために、浸水時間を設定する。
- ・相対密度は $Dr \doteq 50\%$ と設定して、砂量と土槽の目標ラインを設定する。
⇒ 対策工で入れる物の体積を計測して、その分の体積を抜いて $Dr \doteq 50\%$ となる砂量を渡してはどうか。
⇒ 予備試験で確認をする。
- ・時間短縮のために、当日の集合前に 100 円ショップで購入してもらうのが良い。
- ・土槽の壁面や底面から反力を取ることや、支持させることは禁止する。また、購入材料の大きさや体積などの制限を設け、規定以上だった場合には、切ってもらう。
- ・事前に山中先生に 100 円ショップのラインナップを見てもらい、禁止すべき材料が無いかチェックしてもらう。
- ・一発目の加振で液状化する程度の負荷をかけるが、念のために段階加振の余地を残しておく。
- ・計測方法はレーザー変位計を使って時間短縮を図るが、うまくいくかどうか予備試験で確認する。
- ・懇親会場の段取りは山中先生にお願いする。
- ・日大にある 7 号砕石と都市大のろ紙を提供してもらう。

■ その他

- ・次回幹事会は 10 月 30 日(金)15:00～
- ・それまでに各企画の担当者と相談して、企画案を詰めていく。